

栗田村

栗田遺跡の発掘調査では、江戸時代の村の跡も発見されました。

村は石礫の堆積した土地に形成されており、土坑と呼ばれる大きな穴が多数見つかっており、中からは九州北部で生産された唐津焼^{からつ}や伊万里焼^{いまり}の碗・皿・鉢などが多く出土しています。

『石川県石川郡誌』では、「栗田には以前は栗田村と新保村^{しんぼ}の二ヶ村があり、鎮守神社の西方一、二町(約110~220m)のところに栗田村があった。その間には川があって、たびたび洪水がおき栗田村に流入したので、栗田村全部が新保村に移住し、それから栗田新保と称するようになった」とあり、これがかつての栗田村と考えられます。



栗田村跡